

春日台だより 第46号

令和7年2月3日

綾瀬市立春日台中学校

校長 吉田 勉

～学校教育目標～

すすんで学ぶ人 こころ からだ 精神と身体 건강한人 責任を重んじる人 心豊かであたたかい人

2月朝会での校長先生のお話を掲載します。

『情けは人の為ならず』

皆さん、お早うございます。きょうは、本校のヒーロー達について話します。



先月の中旬に、地域の年配の方から電話がありました。内容は、「道路でつまずいて倒れ、脳震盪を起こして意識を失ってしまったが、春日台中学校の生徒達が救急車を呼んでくださったので命を救われた」というものでした。とても感謝をされていて、どうしてもお礼を伝えたいとも話されていました。そのヒーロー達は、バスケットボール部の2年生男子2名と1年生男子7名だとわかりました。その人たちに、私は心から拍手を贈りたいと思います。

私はこのことを知った時に、「情けは人の為ならず」という言葉（諺）を思い浮かべました。意味は、「人に親切にすれば、その相手のためになるだけでなく、やがてはよい報いとなって自分にもどってくる」ということです。「情け」とは、人に対しての親切な行いや優しい行いという意味です。

今回の件で、親切な行いをした9名の皆さんは地域の方から感謝され、こうしてその行いを称えられることになりました。まさに「情けは人の為ならず」ということだと、私は感心しています。

この「情けは人の為ならず」「人に親切にすれば、その相手のためになるだけでなく、やがてはよい報いとなって自分にもどってくる」ということについては、10年ほど前に、ある大学の研究でも証明されているそうです。

その研究内容は、保育園で親切を行う幼児は、後に周りの幼児から親切にしてもらいやすく、自分が親切にした分を、周りの幼児から返してもらっていることが明らかになったというものです。「情けは人の為ならず」ということが、5～6歳児の日常生活でも実際に起こっているということですね。

ここで皆さんに考えてほしいことがあります。「情けは人の為ならず」と逆のことです。つまり、人に対して嫌なことをしたり意地悪をしたりしたら、自分にもどってくるだろうか。それとも、もどってこないだろうか、ということです。

私は、当然もどってくると確信しています。人に嫌なことや意地悪なことを繰り返していれば、周りから信用されなくなったり、親切にしてもらえなくなったりしてしまうのではないのでしょうか。

春日台中学校の皆さんには、今回のヒーロー達のように、いつでも人に対して親切な行いや優しい行いができる人であってほしいと、強く強く願っています。

<裏面もご覧ください>

<第3回 学校運営協議会開催について>



開催日時	2月25日(火)
開催場所	綾瀬市立春日台中学校 校長室
議題	学校評価についての説明、来年度に向けて等
公開・非公開	公開
傍聴の席数	5席
傍聴申込方法	下記の問い合わせ先まで
問い合わせ先	綾瀬市立春日台中学校 (教頭) 0467-76-8661